

写真の特殊加工を楽しみましょう

3ステップで簡単に加工できる無料サイト～ tiltshiftmaker.com



松本ぼんぼんの
写真で試して
みました！
簡単でおもしろ
いですよ^^

雑誌やインターネットのブログなどで、ミニチュア模型で作った箱庭のような写真を見たことはありませんか。模型にしては、すごく精密だなあと感じていると、「実写です」という書き込みを見て驚かされます。

また、ブログなどで微妙に周辺のピントをぼかして、プロが撮影したような雰囲気のある料理写真をよく見かけます。もともとは特殊な撮影方法で、一部分だけにピントを合わせることができる特殊レンズ（ティルト・シフト・レンズ）を利用して撮影する、プロの技術を駆使したものでしたが、今ではアマチュアでもこのテクニックを使えるそうです。

数年前に日本の風景カメラマンがこの技法で作品を発表してから話題となり、現在では有料の画像処理ソフトを利用すれば手軽に加工が可能になっています。

さらに最近、インターネット上の無料サイトが登場し、ますます身近になりました。「Tilt Shift Maker: ティルト・シフト・メーカー」というサイトで、URLは<http://tiltshiftmaker.com> です。

JPEG形式で保存されている写真データを「ミニチュア模型のような写真」や「雰囲気のあるプロ並みのグルメ写真」に無料で加工できます。英語のサイトですが、操作はとても簡単です。

1. 写真をアップロード
2. フォーカス（ピントをあわす）領域を設定
3. できあがった加工後の写真を保存

という、3ステップだけで特殊効果写真ができあがりますので、ぜひお試しください。



1. 写真をアップロード

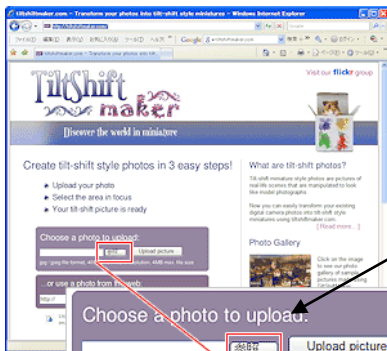


tiltshiftmaker.com

トップページで自分のパソコンに保存している好きな写真をアップロードします。

風景写真ならビルの上階から見下ろして撮った俯瞰(鳥瞰の構図)のものや、マクロレンズで料理やアクセサリを立体的な構図で拡大撮影したもののほうが、特殊効果が強調されます。平面的でのっぺりとした写真ではドラマチックな効果は期待できません。

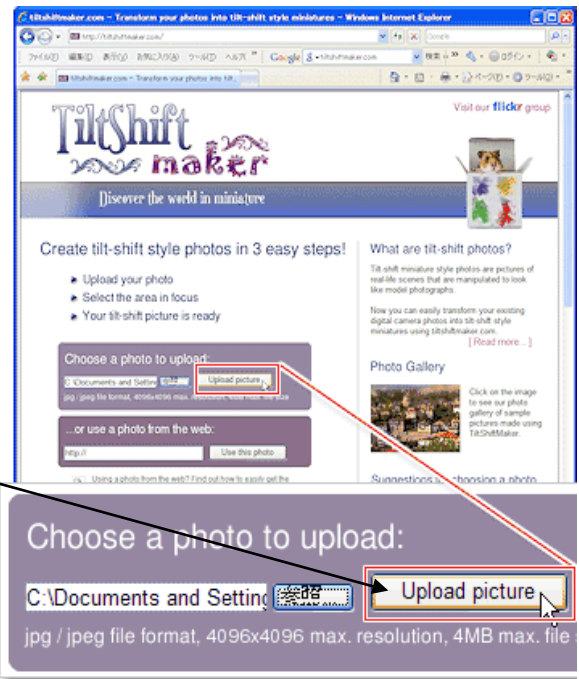
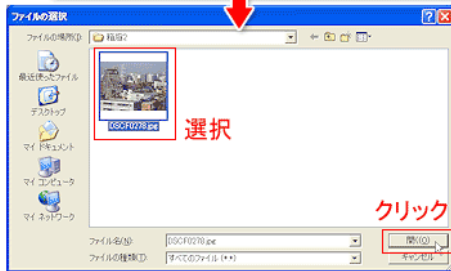
アップロードできるのは JPEG 形式の 4096×4096 ピクセル、4MB までの画像です。デジカメ写真はあらかじめ 800 ピクセル程度にしておく、処理も速いのでおすすめです。



「Choose a photo to upload:」の「参照」をクリック。

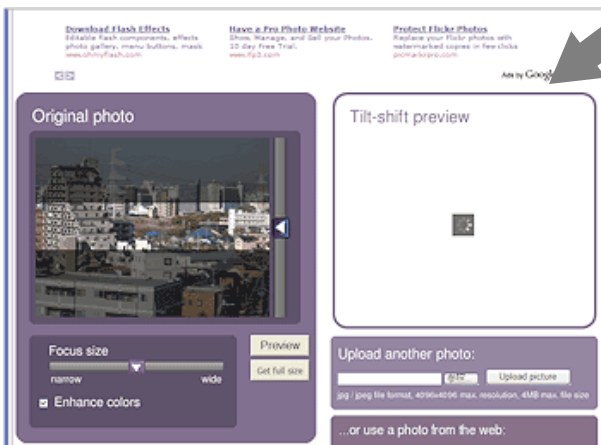
パソコンから好きな写真を選び、

「Upload picture」をクリック。



写真がアップロードされると、「Original photo」の欄に写真が表示され、フォーカスする領域が明るく、「ぼかし」のかかる部分が暗く表示されます。

写真がアップロードされた直後の状態です。次は、フォーカス領域を設定して、プレビュー加工後の完成画像を保存します。



2. フォーカス領域を設定

「Original photo」ではっきり見せたい位置を調整します。明るいフォーカス領域にはっきり見せる部分が表示されるように、右側の三角形を上下にドラッグして調整します。

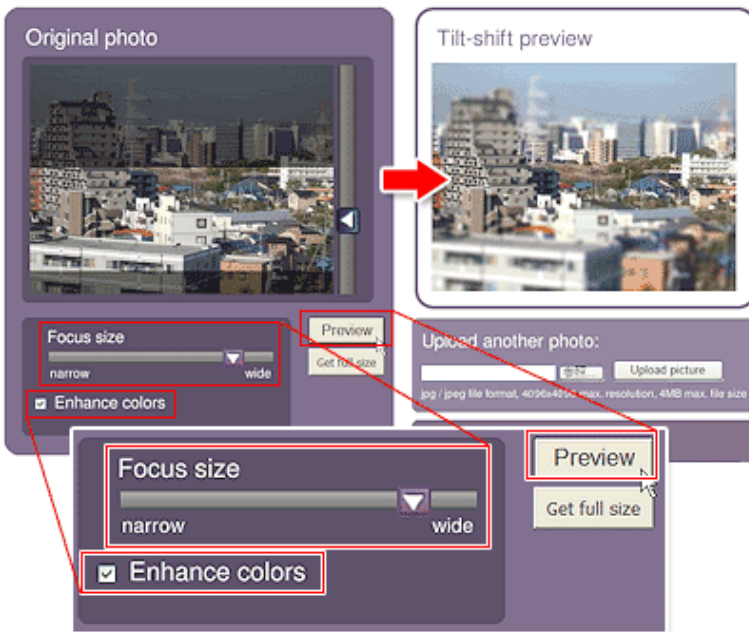


さらに「Focus size」のスライダーを左右にドラッグして、フォーカス範囲の広さを調整します。「Enhance colors」のチェックは入れておくと、明るさと鮮やかさが増して、より効果が強調されます。右側の三角形を上下にドラッグして調整します。「Focus size」のスライダーを左にドラッグすると、はっきり見せる領域が狭まり、右にドラッグするとぼかす範囲が狭くなります。「Enhance colors」のチェックは入れておきます。

調整が終わったところで、「Preview」ボタンをクリックすると、調整結果が右側の欄に表示されます。

プレビューで確認して、調整が必要でしたら再度調整後、「Preview」ボタンを押して確認します。

3. できあがった加工済みの写真を保存



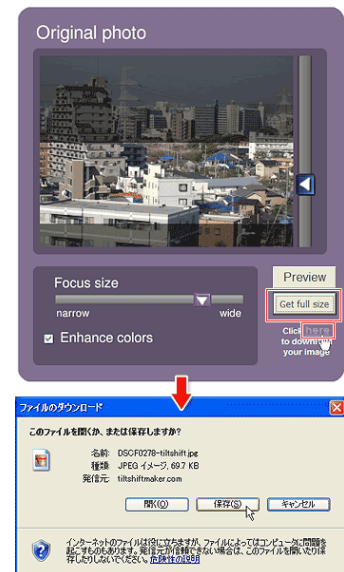
結果に満足できましたら、加工後の写真をダウンロードします。「Get full size」ボタンをクリックして、その下に表示される「Click here to download your image」の「here」をクリックします。

ダイアログボックスで「保存」をクリックして、パソコンの任意の場所に保存して、できあがりです。できあがった写真はJPEG形式で保存されます。

劣化も目立たず、品質は良好です。

なお、今回紹介のTiltshiftmakerは、元の画像が2000pixelを超えると写真を加工してダウンロードするには費用が必要になります。ただ、2000pixelを超える画像でもダウンロードする際に2000pixelまで大きさを下げてダウンロードすれば、無料です。

最後にもうひとつ、Tiltshift Generatorという似たサイトがあります。多少操作が難しくなりますが、「ぼかし」がライン状にしか入れられないTiltshiftmakerと違って、円形状にぼかしが入れられるのが特徴です。興味のある方はTiltshift Generatorで検索して、お試しください。



道具よもやま話（1）

道具よもやま話

1

腕・刃物・砥石



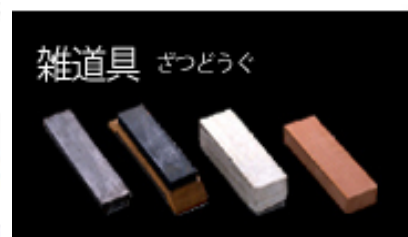
わが国の大工は、職人氣質（かたぎ）といわれるように、昔から仕事の質に関わる道具と材料については並々ならぬこだわりをもってきました。また道具をつくる側の鍛冶も大工の心意気に応じようと、心根を込めて多くの優れた道具を生み出してきました。ここでは職人のやりとりの中から生まれた様々なエピソードを、紹介します。

東京・渋谷の道玄坂の裏手に、明治43年（1910）から大工道具を扱っている老舗がある。当主の吉澤賢三さんは2代目、小柄で紬の和服がよく似合う方だ。

穏やかな口調の中に、時折、持ち前の江戸っ子弁がぼんぼんと小気味よく飛び出す。

近くの恵比寿には鉋鍛冶の名工・石堂さんの仕事場があり、9代目、10代目の石堂さんや初代、3代目の千代鶴さん等とも親交が深かったので、よい道具を所蔵しておられるとのこと、見せていただきに伺った。

「昔の職人衆は、若い時代に仕事の合間をみても、仲間同士で、せっせと柱や板を削っては、出来栄を見せ合い、自慢し合って、腕を磨いたもんです。そして、だんだん腕が上がってくると、どうしても、もっとよい道具がほしいと言って、私どもの所に来るようになってなんなさる。あいつにだけは負けられないと、仲間の方も無理しにきなさる。そして次は砥石となる。刃物の切れ味を決めるのは最後は砥石ですよ。腕、刃物、砥石、この三つ揃って、はじめて一人前になるんですね」と老人はにっこりされた。



この読み物は、竹中大工道具館元副館長・嘉来園夫ならびに元館長補佐・西村治一郎の2名が主となり、「道具・よもやま話」と題して竹中工務店社報（1983年発行）に連載したものを、改めてここに転載したものです。

20年以上前の記述のため、古くなった内容もございますがご容赦下さい。